

歴代会長

初代 金子 義光 (昭和27年～昭和29年)
 二代 江藤 竜太郎 (昭和30年～昭和49年)
 三代 江藤 達雄 (昭和50年～昭和55年)

四代 小倉 一佑 (昭和56年～平成12年)
 五代 江藤 利雄 (平成13年～現職)

町会の歴史

戦後街の復興と共に町会再建の機運も盛り上がり、昭和27年本町通4丁目町会が誕生しました。昭和42年新住居表示の施行により、町会区域青梅街道の南側が本町4丁目、北側が中央3丁目・4丁目の各一部となりました。新住居表示が次第に定着すると共に、町会名に対し違和感を抱くと多くの会員から、町会名改称の声が起こってきました。全町会員によるアンケート調査の結果、昭和57年5月の総会で鍋横町会への改名が承認されました。

二代目会長（江藤 竜太郎）の時に購入した、町会倉庫の土地・建物を個人名義から地縁団体による法人化によって、町会名義の所有が可能となり、平成18年12月臨時総会を開き、法人化が承認されました。これにより法人申請の手続きを経て平成18年12月14日正式に区に認可され、長年の懸案であった町会倉庫の土地・建物が町会名義にて登記されました。

平成25年、従来の名簿に変わるものとして鍋横町会ハンドブックを作成し全会員に配布し、また新規加入者にも町会の手引きとして差し上げています。

町会の活動

会員相互の和を図ることを主に、毎月一回定例会を開き会員に満足いただける活動を話し合っています。また防災・防火・防犯など各行政機関と連携しながら、地域の安全を目指しています。活動の状況は組長による回覧、町会掲示板などで随時会員にお知らせしています。

特に姉妹組織「鍋横防災会」には協力的な助成をし、災害時に必要な水・食糧などを独自に備蓄しています。

平成6年から、環境に関する会員の意識を高めるため、ビン・缶の回収、資源（古紙・古布）回収に力をいれ、問い合わせなどの窓口となり行政との連絡にあたるリサイクル部を新設しました。

鍋横物語

江戸時代中期から明治時代にかけて、堀の内妙法寺参詣道の入口にあった、おいしい草餅と美しい梅園が有名だった茶店「鍋屋」に由来する「鍋屋横丁」の交差点を中心に発展した商店街と、道を一步入ると静かな住宅街とで構成されています。

マンションなど集合住宅の増加と交通至便であるため単身世帯が半数を超えました。

相互扶助の目的と災害時の対応からも、どう町会に取り組んでいくかが今後の課題です。



「鍋屋横丁」由来の碑